

学科沿革

東京～横浜間に日本初の電信が開通したのは明治2年12月25日。本学科の起源は、その後明治6年(1873年)に設置された工部省工学寮工学校電信科にまで遡ります。それは時代の要請を受け、当時の技術の最先端を行く学科でした。明治6年、25歳だった英国人 W.E. エアトンが初代教授となり、5年間主任教授を務めました。

この電信科では主に電気通信技術の習得をめざし、教育科目は数学と物理学、特に電磁気学でした。エアトン教授は学生たちとともに日夜研究に没頭し、その成果を英国の学会誌などに次々に発表したため、電磁気学の大家マクスウェルをして「電気学界の中心は日本に近づけり」と言わしめたという有名な伝説が残されています。

明治19年(1886年)には東京大学と統合され、帝国大学工科大学として再スタート。この頃には電気工学科として電信のみならず電灯、電力、電気鉄道、電話など広範な講義が開講されるようになっていました。これは大学の電気工学科としては世界最初の学科であり、現在の電子・情報系の基礎となっています。

- | | | | |
|------|---|------|---|
| 1871 | 工部省工学寮の設置 | 1961 | 電子工学専攻の新設 |
| 1873 | 英国人 W.E.Ayton(エアトン)の電信科初代教授への就任／第一期生入学 | 1962 | 工学部3号館の増築 |
| 1877 | 工学寮から工部大学校への名称変更 | 1965 | 大学院数物系研究科から大学院工学系研究科への改組 |
| 1879 | 工部大学校第一期生卒業 | 1976 | 工学部10号館の竣工 |
| 1883 | 志田林三郎の日本人初の教授への就任 | 1991 | 電子情報工学科の新設 |
| 1884 | 電信科から電気工学科への名称変更 | 1995 | 電子情報工学専攻の新設／工学部14号館の竣工 |
| 1886 | 工部大学校と東京大学工芸学部との合併／帝国大学工科大学への名称変更 | 1996 | 大規模集積システム設計教育研究センターの設立 |
| 1888 | 虎ノ門から本郷への校舎移転／志田林三郎教授の尽力により電気学会(初代会長：榎本武揚)の創立 | 1999 | 大学院新領域創成科学研究科(先端エネルギー工学専攻、基盤情報学専攻)の新設／高温プラズマ研究センターの設立 |
| 1897 | 帝国大学から東京帝国大学への名称変更 | 2000 | 大学院情報学環、学際情報学府の新設 |
| 1919 | 工科大学から工学部(旧制)への名称変更 | 2001 | 大学院情報理工学系研究科(電子情報学専攻)の新設 |
| 1923 | 関東大震災で本館校舎崩壊(現工学部1号館付近) | 2002 | 文部科学省21世紀COEプログラムに選定 |
| 1930 | 高電圧実験室(現工学部13号館)の竣工 | 2005 | 工学部新2号館の竣工 |
| 1939 | 工学部3号館の竣工 | 2007 | 文部科学省グローバルCOEプログラムに選定 |
| 1942 | 第二工学部の増設 | 2008 | 電気工学専攻、電子工学専攻、基盤情報学専攻から電気系工学専攻への改組 |
| 1947 | 東京帝国大学から東京大学への名称変更 | 2009 | 電気工学科、電子工学科から電気電子工学科への改組 |
| 1949 | 第二工学部の生産技術研究所への転換 | | |
| 1953 | 大学院数物系研究科(新制大学院)に電気工学専攻の設置 | | |
| 1958 | 電子工学科の新設 | | |